





上村松園、宮脇綾子、
草間彌生、やなぎみわ……
生きること、私たちの物語

Creative Women in Japan:
Paving the Way for 100 Years

1963



1

2001



2

1940



3

1986



5

1964



4

 大阪中之島
美術館
NAKANOSHIMA MUSEUM OF ART, OSAKA

2027.1.9 土 3.22 月 休

大阪中之島美術館 5階展示室

[主催]大阪中之島美術館、毎日新聞社 [特別協賛]カルティエ
[協賛]関電不動産開発株式会社 [特別協力]国立国際美術館
[後援]公益財団法人 日本手芸普及協会

1.宮脇綾子《おとと》(部分)1963年 豊田市美術館 2.加藤英佳《ベンジーズ》2001年 高橋書店太田コレクション Photo by Yoshitaka Uchida ©Mika Kato, Courtesy of Tomio Koyama Gallery 3.由美本景子《望遠鏡》
(部分)1940年 京都市美術館 ※半期展示 4.塩見九枝子《千枝子》《ウォーターミュージック》1964年/1991年 国立国際美術館 撮影:橋本一夫 5.高木敏子《ボディ》1986年 京都市立近代美術館 撮影:小西雅美



開催趣旨

本展は、20世紀初頭から現代まで約100年にわたる女性の作家たちの歩みをたどる展覧会です。50名を超える作家たちそれぞれの試みを、各々が置かれた社会状況やライフストーリーと合わせて紹介します。困難に立ち向かい道を切りひらく者、家庭生活の中から表現の糸口を見つけ出す者、自分の身体を通して社会に向き合う者など、その実践はさまざまです。けれども彼女たちにとって、つくることは自分を、そして世界を変えることだったのではないのでしょうか。この展覧会が、性別を問わず現代を生きる多くの人々にとって、表現することの可能性と、自分の中の創造の力をひらくきっかけになることを願います。

みどころ

I 名作、話題作、目白押し！

上村松園、草間彌生、オノ・ヨーコ...時代を代表する約50名の作家たち。

大正から令和まで、過去最大規模で、日本の女性の作家の歩みを一望します。

II 作品誕生までの物語を紹介！

時代とともにありながら、理想を追い求めた作家たちのエネルギッシュな表現や生き方は、今を生きる私たちを勇気づけてくれるでしょう。

章構成

第1章 1920s - 1940s 道筋を切りひらいたパイオニアたち

日本画家、上村松園や、洋画家の三岸節子など、女性が美術家として生きる道を切りひらいたパイオニアたちからおよそ100年にわたる創造の旅を始めます。彼女たちは、女性が主体的に表現することが極めて困難な時代のなか、作品を創り発信し後継のための領野をつくり出しました。



左より

上村松園 《清少納言》 1917 - 18年頃 個人蔵

吉田ふじを 《アイリス》 1954年 東京国立近代美術館

*一部期間のみ展示

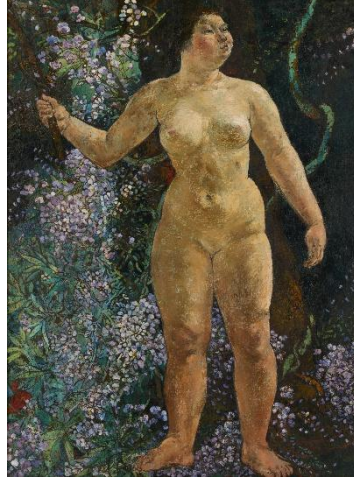


第2章 1920s - 1940s 女性はいかに女性を描いたか

女性の作家は男性と比較すると社会慣習上、モチーフが制限されており、女性像は扱うに相応しい画題の一つとされてきました。そうした制限のなかでも作家たちは、画家としての葛藤を自画像に込める者、女性労働者に目を向ける者、華やかでモダンな生活を描く者、戦時下の不安や苦しみを描写する者など、それぞれの個性を発揮しています。



由里本景子 《望遠鏡》 1940年
京都市美術館
＊半期展示



丸木俊（赤松俊子） 《解放され行く人間性》
1947年 東京国立近代美術館

第3章 1950s - 1970s 欧米への渡航と挑戦

第二次世界大戦後、連合国軍の指導のもとで「婦人解放」が行われました。こうして民主化が進む中、海外、とりわけアメリカに創作活動の可能性を求め渡航した女性たちがいました。ニューヨークで独自の絵画表現を完成させた草間彌生や、国際的な前衛芸術家グループ、フルクサスの結成に関わったオノ・ヨーコ、そこに参加した塩見允枝子（千枝子）など、従来にない挑戦的な活動を彼女たちは志します。



桂ゆき 《作品》 1959年 板橋区立美術館



塩見允枝子(千枝子) 《ウォーター・ミュージック》
1964年/1991年 国立国際美術館 撮影：福永一夫



第4章 1950s - 1970s 具体美術協会

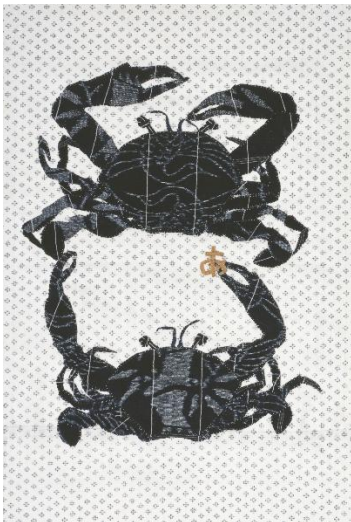
日本、とりわけ関西を拠点としながら世界的なアートのネットワークに参入したのが具体美術協会に参加した美術家たちです。具体美術協会のリーダー、吉原治良は女性も積極的に会に招き入れ、同時代の他の集団と比べると性別に関わらず活動しやすい環境だったようです。そこからは田中敦子や山崎つる子の抽象絵画など世界的に知られる作品が数多く生まれました。



山崎つる子 《作品》 1961年 大阪中之島美術館

第5章 1950s - 1970s 手芸をめぐる

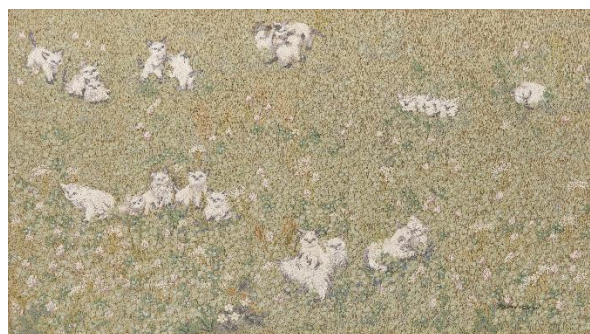
手芸は1950年代以降に大きなブームとなり、大勢の女性が家事の合間に手芸に勤しむようになります。家庭に入り家族を支える主婦像が社会的に規範となった時代です。家庭でできる創作活動として、常に女性たちのそばにあった手芸について、宮脇綾子たちの作品とともに見つめます。



宮脇綾子 《めおと蟹》 1963年
豊田市美術館



宮脇綾子 《アネモネ》 1969年
豊田市美術館



尾上雅野
《クローバー畑の白いネコ達》
制作年不詳
公益財団法人 日本手芸普及協会
撮影：鈴木静華

第6章 1970s - 1980s 女性の立場の向上と解放を求めて

1960年代後半、アメリカのウーマンリブ運動と呼応するように、女性の解放や社会的地位の向上を訴える美術家が増えてゆきます。出光真子は家庭生活の閉塞感や、女性に対する根強い差別を映像作品で表現しました。他にも巨大な絵画と大胆なパフォーマンスで社会の変革を訴えた岸本清子や、アジアの女性との連帯を示したイトー・ターリなどをご紹介します。



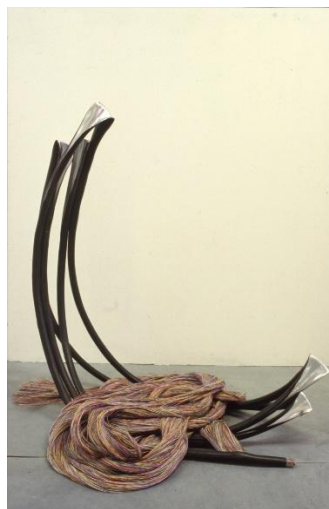
出光真子 《おんなのさくひん》 1973年 大阪中之島美術館

第7章 1970s - 1980s 視覚と認識をめぐって

思索的な表現が重視された1970年代。事物の存在と認識のずれといった哲学的な問いに取り組んだ女性の作家にも注目します。写真や版画、彫刻などの技法を通して、視覚と認識、二次元と三次元の関係を探るなど、作家のジェンダーを意識させない多様な実践をこの章ではたどってゆきます。



辰野登恵子 《Work 85-p-5》 1985年
国立国際美術館



寺内曜子 《Hot Line 68》 1986年
愛知県美術館

第8章 1980s - 2000s 女性の社会進出とメディアとの攻防

男女雇用機会均等法が出来るなど女性の社会進出が進み、女性の大学進学率も上がった1980年代。それを受けてなのか、若い女性の美術家が次々と登場し、メディアでも取り上げられるようになります。しかしながら当時、繁栄した雑誌文化には彼女たちを持ち上げると同時に消費する傾向もありました。この時代を生きた前本彰子や吉澤美香、そして1990年代以降の長島有里枝らの活動を取り上げます。



前本彰子 《NORIKO》 1986年 みそにこみおでん氏蔵

第9章 2000s - 2010s 私的な宇宙と揺らぐ足元

1995年の阪神・淡路大震災と地下鉄サリン事件、そして2001年のアメリカ同時多発テロ事件は、世紀末から新世紀にかけて不安と終末的な気分を作家にもたらしました。その中であって、より私的な感覚を繊細に表現する美術家が増えてゆきます。また、漫画やアニメと美術の境界も緩やかになりました。しかし、こうした時代の気分は2011年の東日本大震災によりまた一変します。



加藤美佳 《パンジーズ》 2001年
高橋龍太郎コレクション
Photo by Yoshitaka Uchida ©Mika Kato,
Courtesy of Tomio Koyama Gallery



木村友紀 《無題》 2010年 国立国際美術館

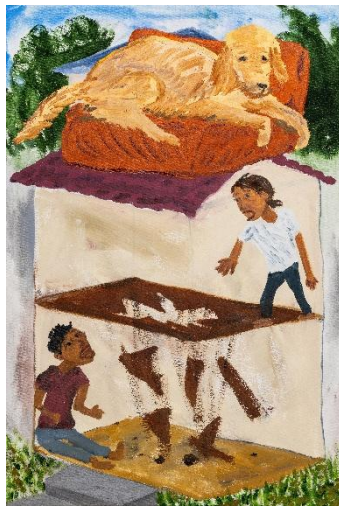


第10章 2010s – 2020s 身体と「女性の美術家」からの解放

2010年代後半、#MeToo運動に呼応するように美術界でも構造的差別に関心が高まり、ジェンダー平等が意識されるようになりました。また、2020年代の新型コロナウイルスの世界的流行は、身体管理やケア、親密圏についてあらためて意識させました。ここでは、それらの視点を交えつつ、これからの生のあり方を問いかける作品を紹介します。



片山真里 《ballet #002》 2013年
愛知県美術館



出津京子 《家のサイズに合わない家具と犬》
2025年 個人蔵



開催概要

展覧会名 つくる女性の100年
会期 2027年1月9日（土） - 3月22日（月・休）
休館日 月曜日、1月12日（火）＊1月11日（月・祝）、3月22日（月・休）は開館
開場時間 10:00 - 17:00（入場は16:30まで）
会場 大阪中之島美術館 5階展示室
観覧料 一般 1900円（前売・団体 1700円）
高大生 1200円（前売・団体 1000円）
中学生以下 無料

＊税込価格。

＊前売券販売期間 2026年11月4日（水）10:00 - 2027年1月8日（金）23:59

＊本展は日時指定制ではございません。

＊団体料金は20名以上。団体鑑賞をご希望の場合は事前に大阪中之島美術館公式サイトからお申込みください。

＊学校団体の場合はご来場の4週間前までに大阪中之島美術館公式サイト「学校団体見学のご案内」からお申込みください。

＊障がい者手帳等をお持ちの方（介護者1名を含む）は当日料金の半額（要証明）。ご来館当日、2階のチケットカウンターにて
お買い求めください（事前予約不要）。

＊一般以外の料金でご利用になる方は証明できるものを当日ご提示ください。

＊本展は、大阪市内在住の65歳以上の方も一般料金が必要です。

＊災害などにより臨時で休館となる場合があります。

【チケット販売場所】

ARTPASS、展覧会公式オンラインチケット（etix）、ほか主要プレイガイド

主催 大阪中之島美術館、毎日新聞社
特別協賛 カルティエ
協賛 関電不動産開発株式会社
特別協力 国立国際美術館
後援 公益財団法人 日本手芸普及協会

美術館公式サイト <https://nakka-art.jp/exhibition-post/paving-the-way100/>

お問い合わせ 06-4301-7285 大阪市総合コールセンター（なにわコール）＊受付時間8:00 - 21:00（年中無休）



[広報用画像一覧] つくる女性の100年

本展の展示物等の画像を、広報素材としてご提供いたします。下記申し込みフォームよりお申し込みください。

[広報用画像申込フォーム]

<https://business.form-mailer.jp/fms/98c1f390369236>

*難しい場合は申込書に必要事項をご記入のうえ、広報事務局までご送付ください。

■ 広報画像をご使用の際は、別紙に記載の「画像使用全般に関する注意」を必ずご確認ください。

(1) 	(2) 	(3) 
(4) 	(5) 	(6) 
(7) 	(8) 	(9) 
(10) 	(11) 	(12) 
(13) 	(14) 	(15) 



[広報用画像クレジット一覧] つくる女性の100年

No.	クレジット・作品名・年代・キャプション
1	上村松園 《清少納言》 1917 - 18年頃 個人蔵
2	吉田ふじを 《アイリス》 1954年 東京国立近代美術館 ＊一部期間のみ展示
3	由里本景子 《望遠鏡》 1940年 京都市美術館 ＊半期展示
4	桂ゆき 《作品》 1959年 板橋区立美術館
5	塩見允枝子(千枝子) 《ウォーター・ミュージック》 1964年/1991年 国立国際美術館 撮影：福永一夫
6	山崎つる子 《作品》 1961年 大阪中之島美術館
7	宮脇綾子 《めおと蟹》 1963年 豊田市美術館
8	尾上雅野 《クローバー畑の白いネコ達》 制作年不詳 公益財団法人 日本手芸普及協会 撮影：鈴木静華
9	出光真子 《おんなのさくひん》 1973年 大阪中之島美術館
10	辰野登恵子 《Work 85-p-5》 1985年 国立国際美術館
11	前本彰子 《NORIKO》 1986年 みそにこみおでん氏蔵
12	加藤美佳 《パンジーズ》 2001年 高橋龍太郎コレクション Photo by Yoshitaka Uchida ©Mika Kato, Courtesy of Tomio Koyama Gallery
13	片山真里 《ballet #002》 2013年 愛知県美術館
14	出津京子 《家のサイズに合わない家具と犬》 2025年 個人蔵
15	チラシデータ ＊クレジット表記不要



[広報用画像申込書] つくる女性の100年

[画像使用全般に関する注意]

- ・本展広報用画像の使用は、展覧会の紹介を目的とした報道に限らせて頂きます。ご使用可能期間は本展会期終了までです。
- ・ご使用の際は、展覧会名、会期、会場名、所定の作品データ、所定のクレジットを必ずご掲載ください。
- ・画像はすべて全図で使用してください。トリミング、文字や他のイメージを重ねることはできません。
- ・本展終了後の掲載、画像の二次使用はできません。本展会期中であっても再放送や転載をされる場合は広報事務局にご連絡ください。
- ・展覧会基本情報と広報画像の確認のため、校正を本展広報事務局にお送りくださるようお願いいたします。
- ・インターネットでご紹介いただく場合はコピーガードをかけてご使用のうえ掲載URLをお知らせください。
- ・掲載誌・紙（ご紹介号）、同録DVDほかを下記広報事務局まで1部お送りください。

[広報用画像申込フォーム]

<https://business.form-mailer.jp/fms/98c1f390369236>

*難しい場合は申込書に必要事項をご記入のうえ、広報事務局までご送付ください。

ご希望の広報画像／1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12・13・14・15	
貴社名／	
お名前／	
部署／	ご所属／
貴媒体名／	媒体種／
サイトURL／	
掲載号・露出予定日／	月号（月日号）／月日発売予定 ☐ WEBへの転載あり
TEL／	FAX／
E-MAIL／	
☐ チケットプレゼントを希望する（最大2組4名様） *招待券のご提供は、広報用画像1点以上を掲載の上、本展をご紹介いただける場合に限りさせていただきます。	
送付先／〒	
備考／	

報道関係者
お問い合わせ先

「つくる女性の100年」広報事務局（株式会社TMオフィス内）
担当：馬場、永井、西坂 TEL：090-6065-0063（馬場） 090-5667-3041（永井）
テレフォンセンター：050-1807-2919 FAX：050-1722-9032 E-MAIL：woman100@tm-office.co.jp